2021年度新型コロナウイルス感染症まん延期における「在宅保健看護実習」の実際

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-09-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐久川, 政吉 メールアドレス: 所属:
URL	https://opcnr.repo.nii.ac.jp/records/430

2021年新型コロナウィルス感染症まん延期における「在宅保健看護実習」の実際

佐久川政吉（「在宅保健看護実習」科目習責任者）

教育上の課題と工夫

本学は統合カリキュラムであり、在宅看護学に関しては各専門科目で教授され、実習（訪問看護ステーション）のみ4年次後学期（9月第4週～10月第4週）に「在宅保健看護実習」（1単位）を展開している。その目的は「生活機能障害を持ち、在宅で生活している対象者の健康問題を総合的に理解し、具体的な支援技術を学習すること」である。

COVID-19の新規感染者の発生が止まらない2020年度は、学生が地域（自宅訪問等）に出ることは中止し、実習指導者を学内に招聘し実習を補ってもらった。学内実習の振り返り科目責任者として、パンデミック下の1年目は、感染対策等を含めて未知数であり、学生や対象者、実習指導者等への感染のリスクを考えると、学内実習は止むを得なかった。2021年度は、感染状況や大学の方針、実習先の方針・対策等を総合的に判断して、可能な限り在宅の現場で実習を展開させたいと考えていた。

2021年の9月～10月、学生にも陽性者が発生する等、COVID-19の拡大は収まらない中で迎えた。前年度（流行1年目）と異なっていたのは、学生のほとんどは2回目のワクチン接種を終えていたこと、実習先での感染対策が構築されていたことであった。実習前の段階で、①離島（久米島・宮古島：12人）は渡航制限が出ているため実習先を沖縄本島内に変更、②通常の感染予防対策で受け入れる実習先、③条件付き（実習前週の金曜日にPCR検査の陰性）で受け入れるステーション、④利用者の了解が得られないことを理由に学生をまったく受け入れられない（1ヶ所：4人）または人数を3人から2人配置（1ヶ所：2人）に変更、に分かれた。学生18人分の代替の実習先を探す必要性に迫られ、既存の実習先での増員と新規の実習先の確保に臨んだ。その際、実習を直接担当する教員（基礎、成人、老年、精神、小児保健看護）には、実習先との事前調整の手間や学生数や学生の変更をお願いし、理解をいただき実習を展開することができた。在宅保健看護実習の期間は、学生1人のみ発熱があり（PCR検査は陰性）、次のクールに振り分けた以外は、感染者を出さずに、実習展開は予定通りに自宅訪問等が出来た。

実習終了後の学生の評価（回答者数13人）では、問い「受け持った患者の看護を中心に実習できた」では、「非常に当てはまる」69.3%と「かなり当てはまる」30.7%、「患者とのコミュニケーションを深めながら実習を展開していた」では、「非常に当てはまる」69.3%、「かなり当てはまる」23.0%等で、肯定的な評価であった。

Withコロナに向けて

今後、新たな感染症が流行していても、パンデミック下の危機的な状況でない限り、大学の教職員、学生、実習先の専門職者と一緒に感染対策・予防を徹底して、訪問対象者が安心した中で、安全に実習が展開できるように、これまでの知見と経験知を基盤に進めていく必要がある。